

深く人の話を聴く、ということ

校長 高橋 秀吉

「人の話をきく」という場合の「きく」は一般的には「聞く」を使用すると思いますが、時には「聴く」という表現を用いることがあります。では、「聞く」と「聴く」とでは何が違うのでしょうか。

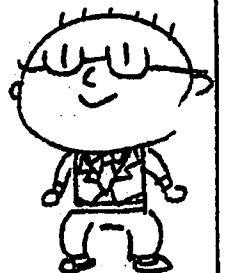
辞書には「聞く」は「耳に感じ取る」、「聴く」は「耳を傾ける」とあります。つまり、音として耳に入ってくるレベルは「聞く」となるかもしれませんが、一方で「聴く」は内容レベルまで入ってくる感じがします。英語では「聞く」が“hear”で「聴く」が“listen to”の感覚に近いかもしれません。

街を歩いているときに、お店から流れてきた音楽は“hear”で、自らCDを買ったり、ダウンロードしたりして主体的に音楽を聴くのが“listen to”のような気がします。もちろん、街で偶然流れてきた音楽に興味をわき、その場で立ち止まって耳を傾けるような状況でしたら、“listen to”となるでしょう。いずれにしても「聴く」または“listen to”には注意深く、集中して、対象の音のみならずその内容や背景までも理解しようとする姿勢が現れているような気がします。

ところで、普段私たちは人の話をよく聞いているつもりが、本当にその人が言いたいことや、その人の思いや背景まで含めて、「そのまま、まるごと」聞いている人は少ないのではないかと思います。自分の関心のあるところだけ聞いたり、自分にとって都合のいいように解釈しながら聞いたり、相手が話し終わらないうちに先走って内容を想像したりしているかもしれません。

さらには、すきあらば、反論しようとして自分の考えとは違うところや、論理的ではないところを見つけるために聞いていたりするときもあるかもしれません。そして、ついつい相手の話が終わる前に口をはさんでしまいます。一般的には人は「自分が話すのを聞いてほしい」傾向が強いのかもしれません。私自身、そのような傾向が強いように思います。けれど、みんながそう思っていたら言いたいことの言い合いで、真に共感したり、言葉の奥にある気持ちを理解したりすることは難しいでしょう。この文章を書きながら自分自身を反省しています。

私たちが本当に深く聴き合うことができたならば、お互いにもっと多くのことに気づき、深く学び、人生が豊かになることでしょう。偏見や先入観を超えて、いつでもフレッシュな気持ちで人とのコミュニケーションができたならば、それは素敵なことだと思います。



◆ 個別支援級 合同学芸会 明るいチーム力で輝く！

1月24日に、横浜市教育委員会、横浜市中学校長会主催の合同学芸会（個別支援級・特別支援学校対象）が戸塚公会堂に於いて行われました。

今年もダンスとダブルダッチのコンビネーションに取り組みました。今年の特長は新たに手話を取り入れたことです。特に3年生はこれまでの経験を踏まえ、創造性や協調性を意識した素晴らしい発表でした。

今回の発表を見ながら考えたことがあります。それは、今回の発表の中にこれからの教育で大切にされるべき要素がたくさん入っていたことです。発表を見ながら頭に浮かんだ要素をまとめてみました。

【教育で大切にされるべき要素】

- ◆生徒それぞれの主体性を引き出す（自分から取り組んでいる感覚）
- ◆個性を伸ばす（興味関心や特長に応じた能力開発）
- ◆創造力を発揮させる（一緒に何かを創ろうとする意欲と実行力の向上）
- ◆メッセージや主張がある（伝えたいことがあり、伝えようとする意志や姿勢）
- ◆相手意識に基づいた工夫（相手に伝わりやすいように工夫する力）
- ◆より良い関係性の構築（一緒に取り組む中で関係性が豊かになる）
- ◆集団も成長し、個人も成長する（努力、協力、他者理解、自制心の向上）
- ◆笑顔（前向きになり、相手の気持ちも明るくする）

毎年のことながら地道な練習や生徒各々の個性が生かされた、圧倒的なパフォーマンスでした。特に今年は台中の発表は「明るい！」との評価をいただきました。笑顔と前向きな姿勢がオーディエンスを捉えました。

当日、ご来場いただいた保護者の皆さま、ご協力いただきました各方面の皆さま、ありがとうございます。

なお、今回も素晴らしい内容でしたので2月5日(月)の朝会の場(8時50分～ 於：体育館)での発表をお願いしております。保護者の皆さま、地域の皆さま、お時間がございましたらお越しください。

